

報 道 資 料

発表年月日 令和6年6月14日(金)
担当部署名 福祉医療部医療政策局疾病対策課
担当者 市川・小池
連絡先 0742-27-8612(内線 3133・3130)

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)患者の発生について

県内の医療機関から吉野保健所に重症熱性血小板減少症候群(以下、「SFTS」という。)の疑いがある患者の報告があり、県保健研究センターで検査した結果、県内で初となる SFTS 患者が確認されました。

なお、報道機関各位におかれましては、患者様やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。医療機関への取材や直接のお問い合わせはお控えください。

●患者の概要

- 【年代・性別】 80歳代、女性(吉野保健所管内在住)
- 【症 状】 発熱、嘔吐、下痢、全身倦怠感 等
- 【患者の状況】 医療機関に入院・加療中
- 【そ の 他】 マダニによる刺し口は認められず、感染経路不明

●経過

- 6月4日 悪寒、嘔気等を認め、A医療機関を受診
- 6月7日 症状が悪化し、B医療機関に救急搬送、入院
- 6月13日 県保健研究センターによるPCR検査にて陽性確認

●県民の皆様へ

＜感染を防止するために＞

- ・マダニに咬まれないように気をつけることが重要です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。
- ・マダニは、主に森林や草地等の屋外に生息し、全国的に分布しています。家庭内に生息するダニとは種類が異なります。
- ・草むらや藪などに入る場合には、長袖、長ズボン、長靴、帽子、手袋等を着用し、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大事です。

＜もしマダニに咬まれたら＞

- ・マダニの多くはヒトや動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間(数日から長いもので10日間以上)吸血します。
- ・吸血中のマダニに気が付いた際は、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿するなどの恐れがあるので、医療機関(皮膚科など)で処置しましょう。

- ・マダニに咬まれた後、数週間程度は、体調の変化に注意しましょう。発熱等の症状がみられた場合は、医療機関を受診し、マダニに咬まれたことや森林や草地等に行ったことを医師に伝えてください。

< SFTSとは >

SFTSウイルスに感染することで引き起こされる病気で、主にSFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。

潜伏期間は6～14日。症状は、発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、腹痛、下痢)が多く、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出血症状などを起こします。血液所見では、血小板減少、白血球減少、血液酵素の上昇がみられます。致死率は、6.3～30%程度と報告されていますが、治療は対症的な方法しかなく、現時点においては有効な薬剤やワクチンはありません。

< SFTSの発生状況 > (R6年6月13日現在)

年	H25(2013年)	H26(2014年)	H27(2015年)	H28(2016年)	H29(2017年)	H30(2018年)
奈良県	0	0	0	0	0	0
全 国	48	61	60	60	90	77

年	R1(2019年)	R2(2020年)	R3(2021年)	R4(2022年)	R5(2023年)	R6(2024年)
奈良県	0	0	0	0	0	1
全 国	101	78	110	118	134	59

※奈良県では、1例目の患者です。

全国では、平成25年1月に国内で初めて確認されて以降、毎年60～100名程度の患者が報告されています。